

事業所における自己評価結果 (公表)

公表:令和6年2月20日

事業所名 こどもケアセンターほっと大田(ほわわ大田)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動室だけでなく建物全体を活用して支援を行っている。また、中庭や河川敷など屋外も広く活用している。	
	②	職員の配置数は適切である	○		必要な人数の配置は行っている。	引き続き、採用を行い利用人数が増加できるように努める
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		広い空間の中で食事と活動を行っている。仕切りなどの区切りがないため、環境設定を行い個別に必要な支援を行っている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々の清掃を習慣にしており、清潔な空間を保てるようにしている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		日々の疑問や課題を共有し支援方針や関わり方について検討、話し合いを行っている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		職員・パートに共有し、問題解決に向けて実施している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人のホームページで公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	実施していない。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達特性や虐待防止、管理、看護に関する研修会に定期的に参加している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用者との日々の関りや保護者からの情報、家族の思いを基にスタッフ間で話し合い、将来あるべき姿をイメージした上で現在の計画を立案している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		法人の既定の書式を使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援ガイドラインの内容は、重要事項説明書に記載しており、契約の際に説明している。個別に合わせた支援内容を検討し、計画している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		企画担当者が立案し、スタッフで検討して利用者に合ったものを実践している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に応じたイベントや仕事を交えながら工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○		発達段階に応じた活動を検討し、利用者さんに合ったものを提供できるように計画立案している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援当日に、打ち合わせを行い支援するパートに共有している。疑問も解決してから支援に入れるようにしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に、今日の支援で困ったことなどを共有、解決できることはその場で助言等行っている。定期的にパート全体に共有を行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		振り返りやミーティングに参加できていない人への共有やパートも閲覧できるように提示している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年ごとにモニタリングを行っている。個別支援計画はパート・職員で3か月ごとに評価を行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		当利用者に詳しいものが参加できるように勤務調整を行っている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		大田区の会議に参加し、そこから関係者と繋がり、連携していく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医やかかりつけ医の把握を行い、看護師指示書など書面でのやりとりも行っている。必要時は訪問看護師とも連携を行っている。嘱託医は定期的に訪問し、利用者の状況を共有している。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		併用して通園している場合、幼稚園等と連携を取っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学前に、支援内容や利用者の特性について学校側にお伝えしている。また、翌年度にどのような子どもが通う可能性があるかなど情報交換を行っている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		定期的に研修に参加している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある		○		近隣の保育所等と交流を持ち、一緒に活動する機会を作る。園庭開放やイベントに参加を検討している。
	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の 子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	会報などを読み情報収集している。	大田区以外の情報収集も 行い参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	○		母子分離での活動を行っており、 引き継ぎの際に共有しているが短 時間では共有しきれていない部分 があると感じている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム(ペアレント・ トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングは実施して いない。個別で困りごとや関わり方 の相談、提案をさせていただいて いる。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	○		年度ごとの契約の際に書面を通し て説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計画」 を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	○		引継ぎの際やLINE WORKSを使用 し、いつでも連絡が取れるように対 応している。	相談に対して適切に助言・ 返答できないことも多々ある ため、専門的知識を深める 学びを検討していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	○		ニーズ調査を行い、保護者交流会 を実施した。参加人数が少なく、複 数回開催して行きたいと考えてい る。また、イベント時にも交流がで きるように時間を設けたり工夫して いる。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	○		保護者からご意見をいただいた際 は、職員・パートで共有し、問題解 決に努め体制の見直しも行ってい る。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	○			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	○		子どもであっても一人の人間として 尊重している。保護者の立場や気 持ちは考えて支援を行っている。	経験値によって支援者のば らつきはあるため、職員・ パートの教育にも力を入れ ていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている		○		事業計画として入っている が、実現できるまでに足りな い事も多くまだ実施できてい ない。
	非	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
常時等の対応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	○		定期的な避難訓練を計画・実施し パート・スタッフとも共有している。 利用者個人に非常食を準備してい ただき半年ごとに入れ替えを行っ ている。災害時にも事業が継続で きるよう、計画立案を行っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	○		面談時に治療経過や今後の治療 予定を確認し、引継ぎや連絡帳を 活用してに日の利用者の健康状態 の把握を行っている。主に看護師 が行っているが、担当する支援者 も情報を共有している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーをもつ利用者さん の把握を行い、必要な処置が実施 できるように看護師だけでなく、介 護職員も周知するよう努めている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	○		作成し、職員・パートで共有を行っ ている。起きてからだけでなく、ヒヤ リハットが起きそうな場面を想定す る練習を行い、事故を未然に防ぐ ことも行っている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	○		東京都主催の研修に参加してい る。参加できない職員やパートへも 伝達し周知を図っている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	○		契約の際に、身体拘束は行わない 旨を説明している。個別支援計画 には記載はしていない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。